

令和 3 年度秋学期授業アンケート結果について

【講 評】

平成 28 年度春学期より、授業アンケートについては KIU ポータルを活用した Web 回答方式へと変更しました。令和 2 年度春学期から新型コロナウイルス感染症の影響のため遠隔授業を導入したことが要因となり、今学期もアンケートへ回答率がコロナ禍以前より低下しています(今学期 25.62%、今年度春学期 26.32%、前年度秋学期 23.68%、前年度春学期 30.31%、前々年度秋学期 55.95%、前々年度春学期 60.64%)。今学期は、緊急事態宣言により対面授業を遠隔授業に変更した期間はありませんでした。アンケートの全体平均数値は、今年度春学期より低下したもののコロナ禍以前の数値を上回りました。回答率が 50%を上回る科目も、実施対象科目 449 科目のうち 43 科目(今年度春学期 439 科目のうち 47 科目、前年度秋学期 436 科目のうち 27 科目、前年度春学期 398 科目のうち 32 科目)と、回復傾向にあります。学生コメントの件数は減少増加しました(今学期 964 件、今年度春学期 1,176 件、前年度秋学期 1,052 件、前年度春学期 1,629 件、前々年度秋学期 1,480 件、前々年度春学期 2,546 件)。その中で改善希望の割合は 20.2%で、前学期に続き減少傾向にあります(今年度春学期 22.4%、前年度秋学期 22.1%、前年度春学期 28.9%、前々年度秋学期 23.4%、前々年度春学期 39.7%)。

本アンケートの結果は学生の生の声が集約されたものです。先生方には、結果を十分吟味検討し、わかりやすく学生の満足度の高い授業の実現へ役立てていただくことを切に望みます。今回の授業満足度が低評価となった科目においては、授業改善を早急に行ってください。

※ アンケート項目の一部を春学期同様対面及び遠隔授業に対応した内容としました(質問項目下線部分)。13 の質問項目のうち、授業の内容、技術に関する問 9 までの項目を抽出し、次ページ以降に教養教育科目や専門科目など 9 つのグループに分類し、前年同期(2020 年度秋学期)と比較できるよう掲載しました。

質問項目 (下線は対面授業時との変更内容)

- 問 1 授業の到達目標(テーマや目的)は毎回明確に示されていなかったか。
- 問 2 授業内容(授業資料や課題を含む)は理解しやすい適切なレベルでなかったか。
- 問 3 授業は学生の理解度や学修の進捗度を確認しながら進められていたか(授業中または授業全体を通して)。
- 問 4 (対面授業)教員の声や話し方は聞き取りやすかったと思いますか。
(遠隔授業)授業資料や課題は適切な量だったと思いますか。
- 問 5 (対面授業)教員は教えることに熱意・情熱を持って授業に取り組んでいましたか。
(遠隔授業)授業資料や課題は分かりやすくまとめられていましたか(説明されていなかったか)。
- 問 6 (対面授業)教員は授業を妨害する私語や途中退室などに適切な処置を取っていませんでしたか。
(遠隔授業)授業ではその日の授業内容を踏まえた「課題」が提示されていなかったか。
- 問 7 教員は課題や小テストに対するフィードバックや質問に対する回答に努めていたと思いますか。
- 問 8 この授業から学習への刺激や触発を受けることが多かったと思いますか。
- 問 9 この授業を受けて満足しましたか。
- 問 10 あなたがこの授業に出席した比率は、およそ何%ですか。なお、ここでいう「出席」とは、対面型・同時双方向型以外では、期限内に課題を提出した場合を指します。
- 問 11 あなたはこの授業 1 回に対して、予習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか。
- 問 12 この授業を受講する際に主に使用した機材は何ですか。1 つ選んでください。
- 問 13 教員は授業開始時間を守っていませんでしたか。／教員は授業開始時間までに授業資料や課題を準備していませんでしたか。

◆ アンケート実施科目全体の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2021 秋 449 科目	19,779	5,068	25.62	4.27	4.18	4.15	4.22	4.25	4.24	4.19	4.04	4.15
2020 秋 436 科目	19,642	4,651	23.68	4.31	4.18	4.16	4.24	4.28	4.28	4.21	4.05	4.16
2019 秋 436 科目	19,560	10,944	55.95	4.23	4.15	4.12	4.20	4.24	4.14	4.18	4.04	4.13

2021 年度に教育課程（カリキュラム）を改定したことで、1 年次の開講科目数及びアンケート実施科目数が増えました。そのため、昨年度との単純比較はできませんが、今学期は全ての項目で前年同学期より数値が低下しました。ただし、コロナ禍以前の同学期より高い数値です。

1. 共通教育科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2021 秋 50 科目	4,917	1,137	23.12	4.27 (4.27)	4.15 (4.18)	4.12 (4.15)	4.20 (4.22)	4.22 (4.25)	4.23 (4.24)	4.16 (4.19)	3.98 (4.04)	4.10 (4.15)
2020 秋 54 科目	4,871	1,131	23.22	4.26 (4.31)	4.09 (4.18)	4.05 (4.16)	4.18 (4.24)	4.20 (4.28)	4.22 (4.28)	4.14 (4.21)	3.95 (4.05)	4.06 (4.16)

※（ ）内はアンケート全体の数値

全学部共通の共通教育科目（語学、実習科目を除く）の各項目の数値は、全体の平均と比べ、やや低い数値となっていますが、昨年度に比べるとすべての項目で数値が上がっております。2021 年度春学期から情報処理が情報処理演習となり、以前より多くの学生がこの科目を受講することとなったり、アカデミックスキルに情報リテラシーと調査という科目が新規で追加されたりしています。これらの科目に関しては、2021 春学期と比べても授業満足度等に特に大きな差はなくおおむね好評を維持できているように思われます。来年度以降、文科省による「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」への申請に向けた取り組みが本格化していきます。また、現在の高校一年生から情報科目が高校の授業において必修となり、3 年後には高校で情報科目を履修した学生が入学してきます。そのため、情報系に関わる科目（これらの科目のみでなく、より広く倫理学あるいは専門科目における情報系に関係している科目）との連携についても考えていくことが望ましいように思われます。また、教養科目群については、どの科目も履修者数が多く今年度も多くが遠隔授業でした。

2. 外国語科目（英語必修科目）の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2021 秋 46 科目	1,238	260	21.00	4.06 (4.27)	4.06 (4.18)	4.07 (4.15)	4.18 (4.22)	4.25 (4.25)	4.20 (4.24)	4.13 (4.19)	3.90 (4.04)	4.06 (4.15)
2020 秋 15 科目	632	179	28.32	4.09 (4.31)	4.04 (4.18)	4.04 (4.16)	4.10 (4.24)	4.24 (4.28)	4.19 (4.28)	4.08 (4.21)	3.86 (4.05)	4.01 (4.16)

※（ ）内はアンケート全体の数値

2021 年度の教育課程（カリキュラム）の改定により、春学期同様 1 年次の開設科目数及び開講科目数及びが大幅に増えました。英語 2 A（ネイティブ教員）・2 B（日本人教員）に関しては、春

学期とやや異なる傾向にあるようにも思われます。春学期においては「必修の英語のネイティブスピーカーによる授業（英語1A）の数値が、日本人教員による授業（英語1B）のものよりも低くなっているところからは、本学の学生が英語のどのあたりを苦手としているか（すなわちリスニングとスピーキング）が垣間見られるようにも思います」との講評を出しました。しかし、秋学期においては、英語2A・2Bともに、教員によるものというよりは、おそらくは学生の語学レベルによるものだと思われませんが、授業満足度等にばらつきがみられます。入学時のプレイスメントテストでクラス分けがなされ、入学当初から高い点数を取ることのできていた学生（すなわち、大学入学時まで、英語についてのそれなりのレベルの理解度を有している学生）は、春学期・秋学期と授業を受けていく中でさらにレベルアップしていき、それを実感することで、授業に対して高い満足度を示すこととなるものの、点数の低い学生には、そのような効果が高いレベルの学生ほどは見られないということが、間接的ではありますが、推察されます。

とはいえ、すべての学生が1年次にネイティブスピーカーによる英語の授業を受講するという仕組みは評価できるものであるといえましょう。

3. 外国語科目（選択科目）の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2021 秋 24 科目	732	179	24.45	4.21 (4.27)	4.27 (4.18)	4.26 (4.15)	4.25 (4.22)	4.35 (4.25)	4.22 (4.24)	4.19 (4.19)	4.06 (4.04)	4.22 (4.15)
2020 秋 30 科目	822	201	24.45	4.32 (4.31)	4.23 (4.18)	4.22 (4.16)	4.30 (4.24)	4.40 (4.28)	4.35 (4.28)	4.31 (4.21)	4.11 (4.05)	4.23 (4.16)

※（ ）内はアンケート全体の数値

全学部共通の外国語の選択科目についても、回答率がほとんどの科目で低く、それぞれの科目に関して、アンケートの結果を鵜呑みにすることはできませんが、新カリキュラムの科目においては、必修の英語に比べてどの言語のどの科目においても数値が高くなっているのは、学生が選択して履修しているからであるようにも思われます。英語以外の外国語については、多くの授業において、授業満足度が高い数値となっています。対面授業であったことに加え、先生方の授業改善の効果が表れたことがその要因として挙げられるかと思われます。

4. 留学生科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2021 秋 3 科目	56	20	35.71	4.35 (4.27)	4.25 (4.18)	4.25 (4.15)	4.20 (4.22)	4.20 (4.25)	4.25 (4.24)	4.35 (4.19)	4.10 (4.04)	4.20 (4.15)
2020 秋 3 科目	59	21	35.59	4.33 (4.31)	4.38 (4.18)	4.52 (4.16)	4.42 (4.24)	4.33 (4.28)	4.33 (4.28)	4.33 (4.21)	4.23 (4.05)	4.04 (4.16)

※（ ）内はアンケート全体の数値

留学生科目は、昨年度に比べていくつかの項目で数値が低下しましたが、授業満足度は高く、また全体の平均と比べると高い数値となっています。

5. 法学部専門科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2021 秋 35 科目	2,706	558	20.62	4.39 (4.27)	4.22 (4.18)	4.15 (4.15)	4.23 (4.22)	4.31 (4.25)	4.31 (4.24)	4.21 (4.19)	4.07 (4.04)	4.18 (4.15)
2020 秋 30 科目	2,658	519	19.53	4.37 (4.31)	4.17 (4.18)	4.18 (4.16)	4.20 (4.24)	4.30 (4.28)	4.30 (4.28)	4.19 (4.21)	4.08 (4.05)	4.21 (4.16)

※（ ）内はアンケート全体の数値

法学部の専門科目は、回答率が低いものの、全体平均と比較して全ての項目において数値が上回っています。授業満足度だけではなく、授業内容のレベルの適切さを問う設問 2 や、設問 3・4・5・6・7 のような授業運営に関する設問においても高い数値となっている授業が多く、先生方の授業改善の成果が数値となって示されているように思われます。

6. 現代ビジネス学部専門科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2021 秋 85 科目	6,217	1,752	28.18	4.25 (4.27)	4.13 (4.18)	4.11 (4.15)	4.16 (4.22)	4.19 (4.25)	4.20 (4.24)	4.16 (4.19)	4.00 (4.04)	4.10 (4.15)
2020 秋 95 科目	6,940	1,736	25.01	4.32 (4.31)	4.15 (4.18)	4.14 (4.16)	4.22 (4.24)	4.25 (4.28)	4.27 (4.28)	4.18 (4.21)	4.02 (4.05)	4.13 (4.16)

※（ ）内はアンケート全体の数値

現代ビジネス学部の専門科目は、回答率は上昇しましたが、全項目において、全体平均及び昨年より数値が低下しました。春学期の講評においても記載しましたが、自由記入欄への学生の回答では、形式に関して、また難易度に関して、同じ授業においても賛否が分かれていることが見て取れます。地域経済学科においては学生の学力差に大きな開きがあるため、どのレベルの学生に照準を合わせても、受講生全員を満足させる授業をすることの難しさを痛感させるものとなっています。また、より専門性の高い科目になるほど授業満足度が下がっていく傾向にあるようにも思われます。もちろん授業改善の余地はあるとは思いますが、カリキュラムが機能していることを示しているようにも思われます。この点に関しては、今後も検証していきたいと思えます。

7. 資格科目（スポーツ指導員科目・教職課程・図書館学課程）の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2021 秋 31 科目	1,186	431	36.34	4.24 (4.27)	4.20 (4.18)	4.12 (4.15)	4.20 (4.22)	4.20 (4.25)	4.23 (4.24)	4.13 (4.19)	4.06 (4.04)	4.19 (4.15)
2020 秋 31 科目	779	179	22.98	4.44 (4.31)	4.38 (4.18)	4.30 (4.16)	4.36 (4.24)	4.45 (4.28)	4.36 (4.28)	4.28 (4.21)	4.24 (4.05)	4.35 (4.16)

※（ ）内はアンケート全体の数値

資格科目には特別教育科目のスポーツ指導員科目を含みます。回答率がこれまでと比べて大幅に増加しました。それと相対して数値は前年度より大きく下がっています。前年度及び春学期は以前より大幅な改善が見られましたが、大幅に低下しました。ただし、図書館学課程科目において回答者が 1～2 名の科目が殆どであったため数値について前回と一律に比較することは難しくなっています。

8. 実習科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2021 秋 6 科目	192	45	23.44	3.95 (4.27)	4.06 (4.18)	3.91 (4.15)	4.08 (4.22)	4.13 (4.25)	3.93 (4.24)	3.93 (4.19)	4.02 (4.04)	4.13 (4.15)
2020 秋 9 科目	223	52	23.32	4.15 (4.31)	4.23 (4.18)	4.03 (4.16)	4.03 (4.24)	4.25 (4.28)	4.19 (4.28)	4.05 (4.21)	4.21 (4.05)	4.25 (4.16)

※ () 内はアンケート全体の数値

実習科目について、コロナ禍により春学期に続き海外実習が閉講になり開講科目数は少なくなりました。国内での実習についても行動制限の中での実施となり十分な学外での活動が出来なかった中、このような数値であったというのは、授業運営の工夫と、先生方の骨折りと健闘によるものではないかと思われまます。

9. 演習科目の平均

	履修者数	回答者数	回答率	Q 1	Q 2	Q 3	Q 4	Q 5	Q 6	Q 7	Q 8	Q 9
2020 秋 169 科目	2,535	686	27.06	4.37 (4.27)	4.34 (4.18)	4.34 (4.15)	4.42 (4.22)	4.40 (4.25)	4.32 (4.24)	4.38 (4.19)	4.23 (4.04)	4.36 (4.15)
2020 秋 169 科目	2,658	633	23.81	4.38 (4.31)	4.36 (4.18)	4.39 (4.16)	4.43 (4.24)	4.41 (4.28)	4.37 (4.28)	4.40 (4.21)	4.21 (4.05)	4.36 (4.16)

※ () 内はアンケート全体の数値

演習科目の回答は、例年全体平均と比較して全ての項目で数値が高く、昨年度と同様の数値となっています。一方で、各科目の回答率に大きなばらつきが見られます。特に、3、4年次配当科目の回答率向上が課題といえます。また、回答者が誰もいないゼミもありました。毎回のことではありますが、これらの点に関しては、これまでと同様の課題であるように思われます。

10. 学修時間及び学修行動について

問 10. あなたがこの授業に出席した比率は、およそ何%ですか。なお、ここでいう「出席」とは、対面型・同時双方向型以外では期限内に課題を提出した場合を指します（全体に対する回答者の割合）。

	20% 以下	40% 程度	60% 程度	80% 程度	ほぼ 100%
2018 春	0.9 %	1.2 %	13.9 %	33.7 %	50.3 %
2018 秋	1.4 %	1.5 %	17.9 %	36.4 %	42.8 %
2019 春	1.0 %	1.5 %	17.0 %	34.6 %	45.9 %
2019 秋	1.1 %	1.6 %	20.1 %	36.6 %	40.7 %
2020 春	0.4 %	0.8 %	5.7 %	21.1 %	71.9 %
2020 秋	1.1 %	1.1 %	7.2 %	29.0 %	61.6 %
2021 春	0.8 %	1.1 %	9.4 %	28.9 %	59.9 %
2021 秋	0.9 %	0.8 %	11.9 %	33.7 %	52.7 %

2018・2019年度に比べると、高い割合となっています。また、2020年度春学期以降で見ると、ほぼ100%という学生が徐々に減少していることが見て取れます。それに対して、80%程度という学生や60パーセント程度という学生が徐々に増加していることが見て取れます。遠隔授業については、オンデマンド型の授業の場合、学生が自分の体調や都合に合わせて受講できることで高い出席率を維持しやすいかもしれませんが、対面授業の場合は、その曜日のその時間に大学に来なければならないため、体調が悪いなどの理由で出席できない学生も冬場は特にいたかもしれません。対面授業が増えていく中で、徐々に出席率が100%から80%に、80%から60%にと低下していった可能性もあるように思われます。また、前回の講評でも述べましたが、昨年度からの出席率の上昇傾向は、進級要件ができたからというのも理由かもしれません。

問 11. あなたはこの授業1回に対して、予習などの事前準備や復習にどの程度時間をかけましたか（全体に対する回答者の割合）。

	全くしていない	30分程度	1時間程度	2時間程度	3時間以上	平均(分)	学修したと回答した学生の平均(分)
2016春	61.0%	22.4%	9.8%	3.0%	3.8%	23.09分	59.20分
2016秋	63.3%	20.1%	10.4%	2.6%	3.7%	21.99分	59.87分
2017春	56.9%	24.8%	10.7%	3.9%	3.7%	25.22分	58.47分
2017秋	55.6%	24.6%	11.5%	4.2%	4.1%	26.61分	59.99分
2018春	48.8%	28.7%	12.5%	4.3%	5.6%	31.45分	61.47分
2018秋	53.4%	25.8%	12.3%	4.2%	4.4%	27.98分	59.99分
2019春	52.4%	28.2%	11.7%	3.9%	3.7%	26.88分	56.54分
2019秋	56.2%	26.0%	11.4%	3.5%	2.9%	24.04分	54.94分
2020春	26.1%	38.8%	25.5%	6.8%	2.8%	40.15分	54.33分
2020秋	26.6%	40.8%	23.5%	5.9%	3.1%	39.02分	53.20分
2021春	29.5%	41.5%	22.5%	4.4%	2.1%	35.02分	49.68分
2021秋	30.2%	38.8%	23.8%	5.1%	2.1%	35.85分	51.35分

以前の講評でも述べましたが、事前準備や復習を「全くしていない」と回答した割合の、2020年度の春学期からの大幅な減少傾向が、今学期も続いています。遠隔授業において毎回課題が課されることによるものが大きいと思われます。それが対面授業にも波及している可能性があります。とはいえ、今学期の平均学修時間は、2020年度にくらべ、2021年度は僅かばかりですが減少しています。また、秋学期は、現代ビジネス学部の4年生には卒業論文の締め切りがありますし、全学的に見れば4年生は卒業がかかっていますし、2・3年生においては進級がかかった学生もいたでしょうから、それをモチベーションとして勉強を頑張った学生もいたことでしょう。とはいえ、学修したと該当した学生の平均値が50分程度となっており、事前・事後学習それぞれ90分（合計180分）には程遠く、学生に学習習慣を付けさせる工夫が必要だといえるでしょう。

《2020 年度及び 2021 年度独自の質問項目》

問 12. この授業を受講する際に主に使用した機材は何ですか。一つ選んでください。(回答人数及び全体に対する回答者の割合)。

		パソコン	タブレット	スマートフォン	大学の PC 教室	その他
2020 春	人数	4,242	233	1,248	15	58
	割合	73.2 %	4.0 %	21.5 %	0.3 %	1.0 %
2020 秋	人数	3,228	167	1,135	36	65
	割合	69.7 %	3.6 %	24.5 %	0.8 %	1.4 %
2021 春	人数	2,698	142	1,954	100	363
	割合	51.3 %	2.7 %	37.2 %	1.9 %	6.9 %
2021 秋	人数	2,387	150	1,810	134	575
	割合	47.2 %	3.0 %	35.8 %	2.7 %	11.4 %

前回同様、遠隔授業の受講に大学の PC 教室を利用していると回答した学生が増えたのは、大学にいる時間に遠隔授業を受けているということであると思われます。そして、スマートフォンで受講している割合がそれなりに高いのも、同様の理由であるように思われます。

以 上